



目次

- ・新理事就任および前理事退任のご挨拶
- ・お知らせ

2025年6月より認定NPOを目指して新体制となります

平素より私達アフリカ支援アサンテ ナゴヤの活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

当初は2025年5月の総会をもってアサンテ ナゴヤを閉じる準備をしていましたが、会員の皆様からの存続を求める強いご要望をいただいたことから、先の総会でアサンテ ナゴヤの存続の是非をお諮りしたところ、ほぼ全員からの賛成のうえアサンテ ナゴヤの存続と新役員の選出が決定いたしました。

存続後は認定NPOとして認可されることを目指し、最重要課題である資金獲得の解決に向けて努力していくたいと思いますので、引き続き会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



特定非営利法人アフリカ支援アサンテ ナゴヤの再出発

新理事長 内海 真

2008 年に設立されたアフリカ支援アサンテ ナゴヤは、2025 年に閉じる予定でした。私を含む前理事の全員がこれに向けて準備を進めてきました。閉じる理由として、①資金の枯渇、②理事の高齢化、③ゲム村の診療所の運営が少しずつ軌道に乗り始めたこと、そして最も大きくは、④ゲム村の HIV 感染が拡大から縮小に転じたこと、が挙げられます。③、④については、ある程度目的を達成できたのではないか、という思いがありました。

ゲム村は、ケニアをこよなく愛していた名古屋在住の薬剤師である故讃岐珠緒さんの友人（メリーさん）の故郷で、2008 年当時 HIV 感染症/AIDS が猛威を振るっていた土地です。ケニアの西方のヴィクトリア湖の近くに存在する村で、水道も電気もガスもなく、交通機関もない隔絶された村でした。我々は 2009 年に調査旅行に出かけ、その翌年から毎年無料医療キャンプを実施してきました。最初のキャンプで HIV 検査を実施しましたところ、何と検査を受けた人々の 23% が HIV 陽性でした。この村はいずれ滅びるのではないかと危機感を抱いたものです。それ以後、現地の NGO である RUNELD (Rural New Life Development) と協力して HIV 感染症/AIDS 予防活動に取り組み、これまでに以下のような成果を挙げることができました。

1. 診療所 (St. Teresa Asante Nagoya Health Centre 入院病床あり) の設立
2. 設立に先立つ電気の導入とクリーンな水を供給できる井戸の掘削
3. 現地医療チームの編成
4. HIV 感染症/AIDS に対する啓発活動 (RUNELD 中心)
5. HIV 陽性率の減少 (23% から 1.6% へ : 新規受験者の陽性率の推移)
6. 近隣の大都市 Kisii にある病院 (Kisii Teaching & Referral Hospital) との連携構築
7. 診療所における抗 HIV 薬の処方実現
8. ハイエースと救急車の RUNELD への寄贈 (一宮中ライオンズクラブの全面的支援)

新型コロナ感染症のために 2020 年からケニアへの渡航を中断しておりましたが、昨年 5 年ぶりにケニアのゲム村を訪問しました。アサンテ ナゴヤの会員 19 名が参加しましたが、この参加者が以下のような理由で、アサンテ ナゴヤの存続を強く訴えたのです。

1. ゲム村の診療所の医療ニーズが拡大している。
2. それに対応する病棟建設が資金不足のためにストップしている。
3. 現在医師一人で休みなく医療需要に対応しているが、複数の医師が必要である。
4. 医療スタッフが増加している (診療所発足当時の 6 名から 15 名へ)。
5. RUNELD の代表であるエリヤス牧師からの強い存続への要請
6. 多くの会員のケニアを愛する心

以上の経緯から、本年 5 月 25 日に行われたアサンテ ナゴヤの総会で存続の是非をお諮りしたところ、ほぼ全員が存続賛成で、アサンテ ナゴヤの存続が正式に決定されました。同時に、新役員として、新理事長に私、理事には宮田靖志、芝美樹、水谷裕子、監事には渋谷伸子、事務局に安江佐和子、



岩崎奈美、補佐に加藤万理が選出されました。この新たなメンバーで再出発いたします。会員の皆様のご協力を心からお願い申し上げる次第です。

再出発後の最重要課題は、支援資金の獲得であります。前述のように、ゲム村の診療所の病棟建設は資金不足のために中断しておりますし、医療従事者は増加しており人件費は増大しております。また、ゲム村の診療所は貧しい患者さんには無料で医療を提供しておりますので、今まで以上の資金援助が求められます。資金獲得のためには、会員を増やすことと、認定NPOにすることの2点が必要とされます。現会員の皆様には、是非友人知人に呼びかけてアサンテ ナゴヤの会員を増やしていただきたいと思います。また、新役員は出来るだけ早期に認定NPOの認可を得るべく努力する所存です。認定NPOになれば寄付金の控除が得られますので、個人からの寄付のみならず企業などの法人からの寄付も集めやすくなると期待されるからです。

将来はアサンテ ナゴヤを全国組織にして、例えばアサンテジャパンと命名し、いずれは私より若い人がこのNPOを引き継いで、より活発な認定NPOに成長させてほしいと願っております。

.....

出逢ったすべての方々に感謝いたします

前理事長 石川 佳子

いつも大変お世話になっております。

アサンテ ナゴヤの成り立ちやこれまでの活動の様子は前回のニュースレターに書かせていただきました。

簡単な経緯を述べ、そのうえで、この前書かせていただいている方々にも触れていただき、改めて皆様に感謝申し上げたいと思います。

私たちは当初、ケニアの首都・ナイロビのスラム地区・プムワニ村で既に無料医療キャンプに参加していた内海眞医師の活動を支援するため、有志でNPO法人 ILFAR NAGOYA を立ち上げました。その後、私たちのアフリカにおける支援活動を、従来のプムワニ村に対する支援とともに、もう少し支援活動の幅を広げ、現地の人々のニーズに合わせた、医療支援・教育支援・自立支援など幅広く支援していくことになり、それに伴って、私たちのNPO法人の名称を「アフリカ支援アサンテ ナゴヤ」と改称し、定款が新たな目的に沿うように改定され、現在に至っています。

その後、亡くなられた薬剤師の讃岐珠緒さんとの出会いがあり、ケニアの奥地の農村・ゲム村での支援が始まりました。

2009年のリサーチの旅に出かけた時、私たちはまず、ケニアのイロハを学ぶために、昨年の総会でご講演をいただいた早川千晶さんのスタディツアーパートに参加し、ナイロビの最大のキベラスラムで開設されているマゴソスクールを訪問して子どもたちと楽しく交流し、マゴソスクールにはモリコロ基金で獲得した30万円で机や黒板などを寄付させていただきました。

そのリサーチの旅には、一宮中ライオンズクラブの方々も参加くださり、そのご縁は現在も続いています。早川さんからはケニアで活動されていらっしゃる「シロアムの園」の公文和子先生や、チャイルドドクター・ジャパンの宮田久也さんをご紹介いただきました。また、その際にはケニアの地において、現地に住み着いてエイズ孤児などのための孤児院や女性の自立支援のための工房を運営されていら



つしやる菊本照子さんにもお会いすることができ、その後のケニア渡航の度に私たちは工房に立ち寄り、お土産の可愛い動物たちを購入させていただきました。

ナイロビで多くの方々との出逢いをいただいた後、ナイロビから大変な時間を要してたどり着いたゲム・イースト村はトウモロコシがたわわに実る桃源郷のようなところで、特別な想いをしたことを思い出します。現地ではエリヤス氏ご夫妻を始め、多くの方々の歓迎を受けました。

2010年からは無料医療キャンプが徐々に拡大し、2014年に診療所が建ち、2015年には200mの深井戸が掘削されました。この際には多くの皆様から多額のご寄付を賜り、感謝申し上げます。現地の医療キャンプが開設されるにあたり、多くの医師、薬剤師、看護師、検査技師、鍼灸師をはじめとする様々な医療従事者の方々が関与してくださいました。また、愛知医大の学生さんの研修の場となったことも嬉しく思います。

様々な方々からご支援をいただいたて参りましたが、多額の遺贈金を賜ったおかげで、これまでの活動を続けてくることができました。遺贈を賜るにあたり、私たちの活動を選択してくださったご縁に心より感謝申し上げます。

昨年のニュースレターでは、私達の活動は一区切りして・・・と、申し上げましたが、5月の総会のご案内の時にもお伝えいたしましたように、内海理事長のもと、若い方々で活動を継続し、認定NPOを目指すこととなりました。今後ともご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

これまでに出逢った方々に心より感謝申し上げますと共に、今後のアサンテ ナゴヤのご発展をお祈りいたしております。

理事就任のご挨拶

新副理事長 宮田 靖志

このたび、アフリカ支援アサンテ ナゴヤの副理事長という大役を仰せつかることとなりました。私はこれまでアサンテ ナゴヤの諸活動には深く関わることはませんでしたが、愛知医科大学の医学生を引率して三度ケニアを訪れ、現地での視察・診



療活動に同行させていただいたご縁から、このような貴重な機会を頂戴いたしました。

初めての渡航の際、目にしたものすべてが新鮮で、その光景一つひとつが胸を打つものでした。HIV陽性の子どもたちが暮らす施

設、医療資源が限られた中でも工夫を凝らして地域

医療に携わるスタッフたち、そして、障がい児支援に人生を捧げる公文先生——こうした方々の存在に、私はただ圧倒され、そして深く感動しました。特に、何度も困難に直面しながらも支援を継続するアサンテ ナゴヤの姿に、医療者として、人としてのレジリエンスの真の意味を学ばせていただいたように思います。

ある医療施設では、不誠実な職員の問題、資金の流出、施設の閉鎖など幾多の困難が重なり、想い描いた理想とは裏腹の厳しい現実が突きつけられました。しかし、そんな中でも地元の人々と粘り強く対話を続け、信頼を築き直していく理事やスタッフの姿に、私は「希望をつなぐ力」を見ました。それは、目の前の困難に屈せず、理想を諦めず、一歩一歩進んでいく力であり、アサンテ ナゴヤが長年にわたり育んできた魂なのではないかと感じました。

また、私が学生とともに現地を訪れた際には、医療だけでなく教育、福祉、そして何より「人の生き方」に多くを学ばせていただきました。HIVにより

社会的に孤立した子どもたちが、それでも笑顔を絶やさず生活している姿には、言葉にできないほどの力を感じました。こうした経験は、学生たちにとつても人生の転機となったに違いありません。

これまでアサンテ ナゴヤが積み上げてきた実績と信頼、その背景には、前理事長・石川佳子先生、新理事長・内海眞先生をはじめとする皆様の、現地の人々への深い敬意と継続的な関わりがあります。私はその歩みに新たに加わる身として、まずは学ばせていただくことから始め、少しづつでも役割を果たしていければと願っております。

「がっかりはしても、希望は失わない」——これは、現地で出会った医師の言葉です。この言葉を胸に、今後もアサンテ ナゴヤの一員として、誠実に、そして前向きに歩んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

少しでもお役に立てるように…

新理事 芝 美樹

この度、理事を拝命いただきました芝美樹と申します。

アサンテ ナゴヤの活動を知ったのは、内海理事長が聖霊病院職員対象の講演会でアサンテ ナゴヤの活動を紹介された時でした。その時は、日々の仕事と子育てで支援に参加する余裕もありませんでしたが、活動内容に感銘し「いつか私もこんな素晴らしい活動に参加したい」と思った事を鮮明に覚えています。昨年5年ぶりのケニア渡航に参加させていただきました。これまで大変な支援活動をされた方々を差し置き最後といわれていたケニアへの渡航させて頂いたことに心苦しさも感じていましたが、今回認定NPOを目指すアサンテ ナゴヤを継続するにあたり、理事として重圧を感じているとともに微力ながら協力することができうれしく思っております。会員の皆様の思いをケニアに届けられるよう努力してまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

ごあいさつ

新理事 水谷 裕子

今般、理事に就任しました、水谷裕子と申します。ケニアに行かせてください、と改選前の理事さんたちにお願いしたのは、かれこれ19年前になります。わけも分からずケニア入りし薬局や検査のお手伝いをしていると、作業も楽しいのですが、現地の皆がこれまでとても楽しい人たちでした。お手伝いと言いながらも圧倒的に現地の人に助けられている状況ではありましたが、この人たちとお喋りして何かを一緒にするために、またケニアに来たいぞ！と毎回思われています。



またGemEastやアフリカのどこかに行き、現地の皆とお喋りできるように、「何か」を探しながらNPO運営に参加したいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

ご挨拶

新監事 渋谷 伸子

2012年の医療キャンプより参加させていただいております薬剤師の渋谷伸子です。

日々変化はあるものですが、ケニアの変化のスピードはものすごいものがあります。初めて参加した2012年は野原でテントを建てて無料医療キャンプを行いましたが、その後今までに診療所が建てられ、井戸が完成し、電気が診療所までひかれ、ケニア人医療スタッフの家が出来上がり、更に新しい入院用の建物の土台が出来上りました。

これらの変化は、アサンテ ナゴヤの会員のみなさまのご協力があってのもので、人が自分以外の誰かを思う気持ちがもたらしたものであると思ひます。また、ゲム村の人達も日本からの支援に感謝して、頑張っている証です。

このような感動を頂いたアサンテ ナゴヤで、これからも更なる発展をするゲム村のために力になりたいと考えております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

事の始まり「遺志を引き継いで」

前理事 森下 理香

事の始まりは16年前の理事依頼の電話でした。夫の森下高行は2009年2月アサンテ ナゴヤの設立当初の役員で理事を務める予定でしたが、2008年12月に亡くなり、その役割を務めることが叶いませんでした。夫はアサンテ ナゴヤの改称前の ILFAR NAGOYA のメンバーとして、内海 真理事長、石川佳子前理事長らと共にケニア、ナイロビのスラム地区・プムワニ村の無料医療活動に参加させていただきました。ケニアへの思いは参加する度に強くなり、定年後はボランティアでケニアに行きたいと居住の夢を語っていました。ケニアへの思いについては2011夏 ニュースレターにも載せていただきましたが、特に子どもたちに対する思いは強いものでした。その思いを受けて理事の役目を引き受けました。

理事を引き受けたものの、他の理事会メンバーの方々に負担を掛けてばかりでしたが、16年経った今、少しはお役に立てたでしょうか。自問自答しています。アサンテ ナゴヤの事業に関与することができて個人的には良い経験をさせていただいたと思っています。

アサンテ ナゴヤの16年はあっという間に過ぎ去った感じがします。そんな中でケニア、ゲム村における無料医療活動や近隣の施設への訪問には感慨深いものがありました。それは参加した方々の撮影した写真や動画に写る子どもたちの笑顔です。夫もこの笑顔をみたくて医療活動に参加していたのではないかと思います。この笑顔がいつまでも続くことを祈るばかりです。

理事を退任いたしましたが、今後もアサンテ ナ

ゴヤの活動を応援させていただきます。

最後になりましたが、理事任務という機会をいただき、ご指導いただいた内海 真理事長を始めこれまでの理事会メンバーの方々に感謝いたします。また、認定NPOを目指し新体制となったアサンテ ナゴヤの益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

「内海君」「内海さん」「内海先生」

前監事 宮本 信代

名古屋大学医学部学生「内海 真君」を含む約10人で構成された[名古屋カトリック学生連盟]に加わって活動した、聖霊病院付属看護学校学生の私。その後15年ほど経過して、5組の親子で名古屋市内の友人宅で再会。

愛知私学学校保健研究会・講演会[エイズについて]に参加したら、講師が「内海さん！」。聖カピタニオ女子高等学校・養護教諭として勤務、定年退職(2008年)の前年でした。

その再会から、石川佳子さん、[NPO法人 ILFAR NAGOYA]に、ご縁がつながりました。

ナイロビのスラム、プムワニ村で年に一度の医療キャンプに加わっていらした内海、森下さんからのお話は興味深いものでした。その後名称が[NPO法人アサンテ ナゴヤ]に変わり、活動の場がケニア西部に位置するゲム村に移りました。

2010年9月に始まった、ゲム村での[無料医療キャンプ]。2011年9月、2016年9月に参加しました。2011年は、テント内での活動でした。薬局補助が役目でしたが、体調を崩して(腹部症状)2日間、ホテルで休養したのは、悔しいことでした。[HIVと人権・情報センター]と共に活動(電話相談、ナディアパークでの即日HIV抗体検査)した、野々山 洋子さん、木下ゆりさんも参加。



2016年は、検査事務担当。コミュニティセンターが建ち、室内で活動。掘削工事が終わった井戸を確認できたのもうれしいことでした。活動を通して、現地の自立に向けた支援の大切さを実感できました。「点から線、面へ」人と人のつながりが線、面へと活動が広がっていくのですね。

年に1~2度開催の講演会で、強く印象に残っているのは、2010年10月[アフリカの現状について]。講師・神戸俊平さん(ケニア・マサイの村で活動、獣医師)の「アフリカゾウの大きな牙を狙った密漁によって、絶滅の危機に瀕している」の言葉に、それ以降、象牙のイヤリングとブローチを身につけるのをためらっています。

監事としての役目は、年度末の会計監査でしたが、会計書類が適正に処理されていて、毎年スムーズに行えました。その他、主に年会費・寄付の領収書発行、送付を行いましたが、送金いただいた方に感謝の気持ちを一筆箋に添えました。2024年度で、役目を終えましたが、アサンテナゴヤの活動を通して多くの方々と出会い、学ばせていただいたことを深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2025年度から、「内海先生」が理事長として、新体制で活動がスタートしました。認定NPO法人化に向けて、いろいろご苦労もおありかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。これからは、「一員」として、活動に協力させていただきます。

皆様と総会でお会いできるのを楽しみにしています。

アサンテナゴヤ・新体制に向けて

事務局 安江 佐和子

私をアフリカに連れて行って！と日比野さんにお願いしたのは、2016年の事でした。それまではアサンテナゴヤの存在も知らなかった私を快く？参加させていただき感謝を受け、以降も毎年参加させて

頂いていました。昨年は理事に就任させて頂き、今回は事務局の一人として当NPO法人の活動に参加させて頂くこととなりました。

事務的なことは何も分からぬ状況の中で、まずはNPO法人の定款と法務局の把握が違っている事から始まり、岩崎さんにおんぶに抱っこ状態で法務局や、税務署関係に足を運び、認定NPO法人を取得できるよう取り組んでいるところです。

皆様のお力を借りて、微力ながらこの活動にたずさわっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

新体制！アサンテナゴヤへ

事務局補佐 岩崎 奈美

しばらく遠ざかっていましたが、2024年9月の渡航に参加し、2025年、新体制となったアサンテナゴヤの事務局補佐として恥ずかしながら、再び活動に参加することになりました。どうか、よろしくお願ひいたします。

内海印の船に乗り、大航海に出航！しかし、出だしから当NPOの定款と法務局で把握する情報が相違することが判明。2009年8月前後の書類を探し出し、最終的にたどり着いた要因は自分自身の認識不足ともう一歩踏み込んだ行政や所轄庁への確認作業でした。失敗することで多くを学び、今後、認定NPOの法人格を取得するべく、新体制のスタッフ一丸となって取り組んでいく覚悟です！と宣言するところですが、

「楽しく！もっと楽しく！もっともっと楽しく！」を私自身のモットーに活動し、多くの皆さんとともに、アフリカ・ケニア、ゲム村の人々やナイロビのスラムで暮らす子供たち、その支援者の方に笑顔で再会！を胸に、この活動を下支えできたらと思っています。

今後とも当会へのお力添えのほど、よろしくお願ひ申し上げます。

お知らせ

* 会費、賛助会費、協賛及び寄付金をいただいた企業・団体および個人（敬称略）

（2024年11月1日から2025年7月31日までにご支援をいただいた皆様です）

碓氷和子、垣越咲穂、飯田展弘、石川博司、石川美里、渋谷伸子、城戸康年、坂元るり子、AOI 募金、石川佳子、宮本信代、森下理香、黒宮隆男、澤裕子、芝美樹、安江佐和子、内海眞、菊地正、（株）福住、臼井彰基、白野倫徳、住友正武、住友光子、大澤安則、岩崎奈美、菱田純代、日比野福代、日比野丈夫、日比野公治、日比野祐士、宮田靖志、加藤万理、花木達美、花木千枝子、玉木奈美枝、鵜飼利子、杉山英里、川田初美、真野新也、（有）ヤマフ土地、見田くるみ、小田賢一、小田キミエ、平野吉廣、片桐初男、佐野考宏、竹内詩織、遠藤清美、蛭川佳奈、堀井城一朗、乾 朋子、青木孝夫、杉江修治、山本由紀、杉山恵美子、光川千鶴子、山田かおる、宮城島拓人、土屋二郎、村上優、井上重夫、石井圭子、森本明子、大岩洋子、河津芳子、中野朋儀、山田洋平、木下ゆり、知光祐希、森田諒、美濃和茂、眞崎満代、市野健二、野村浩子、尼子道子、内海みどり、大下博、丹羽咲江、藪下彩子、石田義人、石田美枝子、服部万里子、小島美恵子、平松猛、芝葵生、芝茂浩、馬見塚ヨシエ、天野克彦、山内礼子、石丸佳代子、西山英子、服部隆和、医療法人たいようファミリークリニック古宮伸洋、医療法人たいようファミリークリニック古宮圭、高取幸江、中道弘、一宮中ライオンズクラブ八谷健治

* ご支援ありがとうございました。

*先日会員の皆様にお送りしましたニュースレターでは、一宮中ライオンズクラブ八谷健治様の記載に誤りがございました。大変失礼いたしました。

§ 編集後記

2017年と2018年のケニア渡航に参加させていただいたご縁から、2019年より事務局として活動のサポートをさせていただきました。新体制となった現在、学業を優先する形とはなりますが、引き続き活動の補佐をさせていただく運びとなりました。

今回の編集を行うにあたり、前理事である石川様、森下様、宮本様の長年のアサンテへの尽力とその思いを知れたことを嬉しく思うとともに、短い期間でありますましたがともに活動をさせていただけた日々を思い出し、少し寂しい気分であります。本当にお疲れ様でございました。

新体制においてまず解決したいことは、聖テレサ病院の増築にかかった費用の捻出です。金銭面においてマイナスからの出発は、ケニアのとくにゲム村のような地域では非常に大きな負担です。まずはこのマイナスを0にすることを目標として取り組みたいと思います。

引き続きのご支援のほどどうぞよろしくお願ひ致します。

編集：事務局補佐 加藤 万理

事務局：名古屋市昭和区川名山町56番地 聖靈病院内 法人事務室

ホームページアドレス：<https://asante-nagoya.com>

Facebookアドレス：<https://www.facebook.com/asante.nagoya>

メールアドレス：africa@asante-nagoya.com